

東白川村 美しい村づくり 委員会

第31回

○場 所：ふれあいサロン

○時 期：平成30年11月26日 19:00~21:30

○参加者：委員5名 一般参加3名 行政3名

第1 東白川村がんばる地域補助金採択事業の実施報告・ふりかえり

今年度採択された3件の事業について実施報告を行いました。

※各事業の報告内容は、東白川村ホームページの[東白川村がんばる地域づくり補助金](#)にて掲載されています。

1 事業名

「森のようちえんに利用する原生林の山みちづくり 及び
できた山みちをお披露目する森のようちえん体験イベントの開催」

(1) 事業概要

ア 「原生林の山みちづくり」

森のようちえん活動を行うために、原生林に山みちをつくる。

平成30年7月1日(10:00~14:30) 参加者：15名

イ 「おやまんなかフェスタ」

完成した山みちを一般公開し広く認知してもらう為に、森のようちえん体験イベントを行う。

平成30年10月14日(10:00~15:00) 入場者：130名

(2) 質問や意見

ア 地域づくり(持続可能な)は「子ども」を中心に考えていくと、将来や具体的な取組み方が見えてくる。(実施者)

イ 是非続けて欲しい事業。今の時代に必要な取組み。

ウ イベントは参加者も多く、スタッフとしても楽しんだ。

エ ゆったりとした時間が流れていて、心地よかった。

オ 森の力を感じた。

- カ スタッフやイベント企画の柔軟な対応が良かった。
- キ 管理されていない良さ・自由さが魅力だと思う。
- ク 「森のようちえん」は、子どもの自主性が育まれる実感がした。
- ケ すばらしい取組みである。チラシのイラストもすばらしい！
※イラストは実施者が制作
- コ 利用している山が行政管理になれば、保険が適用され、誰でもいつでも山道を利用できるのでは。また持続可能な仕組みとなるのではないか。(実施者)
- サ 行政が管理すると、魅力である「自由度」が下がる。
- シ 民間主体ということに意味がある。
- ス 「森のようちえん利用区画の山への税免除」というような、行政の関わり方があるのでは。
- セ 「森のようちえん」のような、新しい教育に「東白川村」は取り組むべきだと思う。
- ソ Q：チラシには原生林と書いてありますが、実際は雑木林です。
A：植林されていない区域だったので原生林と明記しました。
- タ Q：今後、「森のようちえん（保育所）」の展望はありますか。
鳥取県智頭町では、無認可保育だが町の事業として拡大活動が行われ、小学校も開設されている。この教育環境を求めて移住される方も多いです。
A：そのように展開できればよいが、子どもの人数確保がむずかしい。それよりも、通常保育園児や小学生も参加可能な、「プレパーク」スタイルで「森のおさんぽ会」を続けていきたい。
- チ Q：「森のおさんぽ会」の実施状況は。
A：おさんぽ会は月3回程度行っています。開催場所は様々です。

2 事業名 「鮎の友釣り大会 ヒガシシラカワズカップ」

(1) 事業概要

以前開催されていた、鮎の友釣り大会「ヒガシシラカワズカップ」を復活することにより、伝統漁法である鮎の友釣り人口を増加させることを目的とする。今回は去年開催に続き第2回目となる。

平成30年8月12日(6:00~11:30)

参加者：72名

(2) 質問や意見

- ア 今回は水量が少なく鮎の数の成果が上がらない大会となった。景品が豪華という評判が聞こえてきた。(実施者)
- イ Q：鮎釣り客は年間どれくらいですか。
A：数万人です。
- ウ Q：このイベント参加者による村内旅館への宿泊はありますか。
A：ほとんどない。車中泊がほとんどです。
イベント以外での釣り客による宿泊者はみえます。
- エ Q：チラシが 4000 枚刷られているが、どこに配布されましたか。
A：釣具屋、道の駅、コンビニ、DM、漁協。村外へ PR しました。
- オ Q：村内の釣り人口は？
A：少なくなった。今回のイベントの子供の参加は 1 名だった。
- カ 村には「鮎釣りアカデミー」という子供むけイベントがある。
- キ 競技大会だと、子供や初心者は参加しづらいと思う。
- ケ Q：他地域には、このようなイベントはありますか。
A：近隣にはありません。
- コ 近隣にないのであれば、価値があるイベントだと思う。
有名人（釣り）を呼んで集客アップを見込むのはどうだろうか。
- サ Q：来年度について。
A：申込み方法を簡単にし、漁協事務局でも受付を行います。
目標の参加者数 100 人を目指し、子供の参加を増やす工夫を行います。

3 事業名 伊藤龍平氏講演「ツチノコのいま、むかし」

(1) 事業概要

東白川村はツチノコ目撃情報が日本一と言われており、それを利用した村おこしが平成元年から行われています。観光資源として親近感のあるツチノコは村民にとってどんな存在なのか。人・村・時代背景などを交えて民族学の視点で俯瞰的に見た「東白川村とツチノコ」の講演をとおして、過去を捉え直し、村の将来像を模索する励ましとする。

平成 30 年 8 月 19 日 (14 : 00 ~ 18 : 00)

講演の部：参加者31名

交流の部：参加者14名

講演者：伊藤龍平（いとう・りょうへい）

1972年北海道生まれ

台湾・南台科技大学教員 専攻は伝承文学

（2）質問や意見

ア 参加者がもう少し多いと良いと思った。

関係町村、東海地方の大学（民族学）、メディア、へ案内を送ったが、特に参加はみられなかった。

イ 講演内容が文化的でニーズが少数なものなので、参加者数や講演内容は、問題ないのでは。

ウ もっと良い案内や告知の方法があったのでは。

今井友樹さんによるCATVでの告知があればよかった。

エ 村長と今井友樹さんの対談が行われ、講演後CATVで放送された。

オ 「ツチノコ」と「村づくり」をどうつなげるかが、今後の課題。
今回の講演テーマのように、人智を超えたもの、人が知らない・分からないもの、自然や神秘的なことは、山村ならではの「持続可能性」と結びつくのでは。

世間では、山怪などのテーマの書籍が話題となっている。

わたしも、今回の講演会にとっても興味があった。

カ 村の方は、「ツチノコ」の話題にお腹いっぱいになっている。

キ 神秘的で文化的でニッチな講演会が定期的で開催されると良い。

ク Q：今回の事業は今回で終わるのか。

A：はい。今回で終了です。この事業は、つちのこフェスタ30周年を評価し民族学の視点でツチノコと地域を振り返ることで、村の将来像を模索する励ましとしています。また、今井友樹さんが制作中の「ツチノコ」に関するドキュメンタリー映画の一環ともなっています。この映画公開がこの事業の着地点ともなると思います。

第2 豊田市「おいでんさんそんセンター」について（視察候補地）

事務局（樋口）から、おいでんさんそんセンターについて、視察対応や「くるま座ミーティング」の説明を行いました。

- 1 委員へ、ライングループにて、視察案を選んでもらうこととなりました。後日実施（事務局）※日帰り OR 1泊2日など。
- 2 「くるま座ミーティング」は2/3（日）に開催され懇親会がある。前日2/2（土）の視察対応は不可。（イベント準備の為）
- 3 高野教授から、日帰り可能な視察内容の提示がありました。「豊田市旭地区・廃校利用、お寺シェアルーム、ゲストハウス」

第3 集落あるもの探しについて

11月23日（金）に集落あるもの探しが開催され、製作したイラストマップを貼りだし、当日参加した委員の田口房国さんより説明が行われました。

写真マップは後日製作する。（事務局）

第4 2018年度白川町・東白川村 ORT 報告会の案内

高野教授より、12月8日（土）13:30から行われる、名古屋大学大学院臨床環境研究科の報告会の案内が行われました。

後日、委員へ詳細をライングループにて伝える。（事務局）

※時間が大幅に遅れたため、予定していた「雑談ワークショップ～わたしの近況報告～」は延期となりました。

第5 次回について

- 1 委員会 12月18日（火）19時～
（会場）未定
（内容）忘年会～わたしの近況報告～

以下、写真掲載

